

第 18 回国際ガラス会議参加報告

旭硝子株式会社 中央研究所

西 沢 学

Report on XVIII International Congress on Glass

Manabu Nishizawa

Asahi Glass Co., Ltd. Research Center

第 18 回国際ガラス会議は、今年 1998 年 7 月 5 日から 10 日までの 6 日間、米国サンフランシスコにて開催された。この会議は 3 年に 1 度行われる世界最大の国際会議である。5 日は夕刻のウェルカムレセプションで始まったが、前日は米国の独立記念日であったにもかかわらず多くの参加者があり、このガラス国際会議が終始盛大に行われる予感を感じた。レセプションでは参加者お互いが親睦を深めあったり 3 年ぶりの再会を喜び合ったり情報交換等が盛んになされてなごやかなうちにスタートした。6 日の朝にはオープニングセレモニーが行われ、会議長である Dr. Jack Wenzel 氏の開会宣言に続き、サンフランシスコ市長の Hon. Willie L. Brown Jr. 氏が招かれ、ユーモアたっぷりの威勢の良い演説でこの会議の幕が開けた。続いてアメリカセラミック学会長の Dr. Stephen W. Freiman 氏、Glass and optical Material Division 部会長の Dr. Alexis G. Clare 氏、International Commission on Glass 会長の Dr. L. David Pye 氏の Welcome Speech がなされた。今年はアメリカセラミック学会 100 周年の年であり、また、International Commis-

sion on Glass (ICG) にとっても 65 周年を迎えた区切りのよい年であったため、ICG の歴史についてスライドを用いての詳しい講演が数十分間 Mrs. Alev Yaraman 氏よりなされた。続いて各賞の授与が行われた。先導的研究を行った 35 歳以下の若手研究者に 3 年に 1 度授与される W. A. Weyl 賞は Dr. Sabyasachi Sen 氏に贈られた。酸化物ガラス、結晶、融液の分子/イオン動力学の研究を行い、非晶質・結晶の中距離構造、分相へのクラスター化、酸化物融液の網目修飾酸化物の動力学の、構造に関わる疑問点について新しい解釈を与えた。40 歳未満の業績者に贈られる V. Gottardi 賞は Dr. Xiujuan Zhao 氏に贈られた。酸化物、フッ化物、重ハライドカルコゲナイド、カルコハライドガラスの物性と構造についての研究を幅広く行い、材料としても多層構造導波路、偏光ガラス、スラグや産業廃棄物を用いた建築用結晶化ガラス、自己浄化ガラスといった研究を行った。京都大学で修士および PhD を取得している。続いてコーニング社の Dr. Roger Ackerman 氏より「21 世紀におけるガラスの役割」という演題で、光情報通信においてガラスのはたす重要な役割について講演が行われた。

6 日午後より 8 日のエクスカージョンを除く 4 日間、活発な討論が行われた。会場はサンフ

ランシスコ・マリオットホテル内のホールにて、5セッションが同時進行する55セッションと2つのポスターセッションの形式で、合計800余りの発表が行われた。発表内容概要は以下の通りであった。まず、総論として各産業界のOVERVIEW（容器、建築用、自動車用、ブラウン管用、特殊ガラス、光学ガラス、ファイバーガラス、光通信産業）、ガラス材料としてフッ化物ガラス、カルコゲナイドガラス、希土類含有ガラス、材料としてレーザー、ファイバー、光デバイス、生体用ガラス、ゾルゲル、さらにガラスの物性および製造法に関連して、強度、機械的性質、表面、融液物性およびその測定、構造、電気伝導、内部摩擦、ガラス転移、欠陥、光学的性質、結晶化、各種シミュレーション、原料、環境問題、耐火物、分析法、等の各セッションが行われた。

これまでこの会議のプロシーディングスの本の重いことは先輩から聞かされていたことであったが、今年はCD-ROMになり、お揃いのバッグに重い荷物を抱えての帰国をする必要がなくなった。このことは事前に知らされ、開催地が景気絶好調のアメリカであることから、筆

者が出国前に想像していた会議のスタイルは、「階段教室会場の各人の机の上には聴衆者全員のノートパソコンが備えられ、パソコン上の予稿原稿画面を見ながらの聴講」であったが、実際にはそこまでは先進的ではなかった。逆にタイトル上聞きたい講演が重なった場合の聞くべき講演の判断ができない点や、また、CD-ROM自体の構成がわかりにくい点、検索がしにくい点、また、ポスター発表者の論文がほとんど含まれていないなどは今後改善されるべきものと感じた。

最後に、会議中日8日に行われたエクスカーションは、日系人バスガイド付きの日本人専用バス2台を含む、全10台以上の観光バスにて、ゴールデンゲートブリッジを渡って市街北部のミュアウッド国立公園に行き、港町サウサリートからサンフランシスコ湾内をクルージングしながらのランチを楽しみ、また市内をくまなくバスで観光し、即席サンフランシスコ通になった気分になった。

次回は2001年に英国スコットランドのエジンバラにて開催される。